

毎月1回20日発行

(昭和31年3月28日第三種郵便物認可)

山と博物館

編集責任者 大町山岳博物館



雲海のかなたに逆光で仰ぐ

劔・立山連峰

The Turugi Tateyama range

はなやかだった夏山の日も終って、ひそやかに暮色がただよいだす。薄雲を通して光る太陽は、静かに彼方の海に沈まうとしている。屋間はあとかたもなかった雲海が再び現れて谷間をとざす、そのゆつたりとした流れをじっと凝視している。冷たく吹き上げてきた谷風も山風と交代する時間になったのか山なぎの静かなひとときである。

NO. 18

1957年6月20日

大町山岳博物館 発行



黒部 溪谷を囲む山々

黒部の源流は鷲羽、三俣蓮華に端を発し、薬師、鈿立山、赤牛、烏帽子、鹿島、白馬の各連峰の間を縫い、日本海に流れ込む。

すばらしい黒部の景観

北アルプスの大動脈として、誰も知らない久しい昔から流れつづけていた黒部の溪谷。鷲羽岳、三俣蓮華(みつまたれんげ)岳に源を発して、黒部五郎、雲の平、薬師(やくし)岳、赤牛(あかうし)岳、水晶(すいしょう)岳、更に東方が烏帽子(えぼし)連峰に囲まれた源流の一带は、すべて海拔2000m以上の地域で非常に優雅な高原状になって、激流が岩をかむ黒部溪谷とはにてもにつかない穏やかな別天地を形成している。俗化してゆく北アルプスの山々、谷々に充たされない登山者たちの唯一の憩の場となっている。

ここに発した黒部川は、地球の歴史の一頁々々を克明に岩肌を刻みながら、豪壮な峡谷や、あるいは幾多の美しい懸谷(けんこく)をつくって延々130kmを流れて富山平野の北部を日本海に注いでいる。このような長大な懸谷は日本アルプスの数多い溪谷のなかでも比類のないもので、溪谷に接して立山連峰、薬師連峰、赤牛連峰、烏帽子連峰、鹿島(かしま)連峰、白馬連峰がそそり立つ。

北アルプスを縦断する大断層によって形成されたと考えられる溪谷と峰々は、比較的新しい地質時代の隆起運動とあいまって、その



白馬岳から杓子・鎖ヶ岳方面を望む

上昇にもなった非常に激しい浸蝕作用によって、自然が創造した山岳美と溪谷美を展開している。更に多くのカールや氷蝕谷を残して過去に存在した山岳氷河の氷蝕地形が綴られている。

黒部川は地形と景観の面より大きく四つに大別される。即ち黒部源流地域、上廊下地域、下廊下地域、樺(けやき)平以降の地域であり、いつの頃からか呼ばれるようになったものか五郎沢、薬師沢、東沢谷、剣沢、仙人谷、棒小屋沢など僅に一つの大溪谷をなすものから、名もない支流まで数百の流れを合せて流下する。

黒部溪谷のなかでも、特に峡谷の姿を余すところなく露呈する下廊下は、関西電力第三発電所取入口、仙人ダムから始まる。本流にかけられた吊橋、直立した岩壁に八番線で吊られた二本丸太の吊橋。S字峡、半月峡、十字橋、白滝峡、大へつりなど激流と断崖絶壁で構成されたすばらしい景観が続いている。特に剣沢と棒小屋沢が西と東に相対して本流に落ち込んだ十字峡では、剣沢が滝となって本流の落口附近に周囲200mの滝つぼを形成し、一たんここでトロとなって後、さらに小さい滝となって本流へ注いでいる。

黒部は科学の園

野猿さえ渡るのをためらったという黒部峡谷、それはかつて未踏地として山にも谷にも最高の経験をもった人だけが探究できる神祕境であった。しかしそれが今、電源開発の波にのって大きな変容をとげようとしている。黒部第四発電所建設にともなう御前沢ダムの建設工事は、まさに黒部の大自然を大衆に開放する契機をつくった。そしてそれはまた、同時に新しい山岳公園の将来にも転機をもたらすものであった。

黒部峡谷は中部山岳国立公園の中でも世界的規模を誇っている。その大自然をそのままの姿で、いかにして永遠に保全するかは、心ある人たちのまじめな願いであった。国



←白馬から望む鈿立山連峰、鹿島連峰に相対し、間を黒部川が流れる。鈿の尖峰と南に連なるのが立山の諸峰。



烏帽子小屋付近より三ツ岳を望み一休み



高山帯を特色づけるハイマツとハクサンシヤクナゲ いたるところに群落をつくり繁茂している。黒部を囲む山々で白鳥連峰、鈿立山連峰は高山植物の宝庫である



薬師岳コルの湿原、薬師岳は女性的な山で黒部を取巻く中最も規模が大きい



タカネウススキレウと爺ヶ岳

○…目先の利益や便宜のためには法律も文化も破壊して進もうというのが現代日本の実情である。一部の人々には植物保護などの精神はその片影さえも認められない。(東大教授 本田正次氏)

○…日本の鳥獣の激しい減少は明治以後長きにわたる国民の鳥獣に対する認識の誤りによるものであって、その根源は自然に関する教育の誤りにある。そしてその教育の誤りは現在もなお著しい改善を見ていない。(鳥類研究所長 山階芳麿氏)

立公園の大衆化……、それはこのような切実な願いを私たち国民の共通の願いとするとき、はじめて実現する。

変化に富んだ地形と景観はそのまゝ景勝地として価値ある自然の創造物である。しかしその中で生を営む動物や植物なども自然の美しさと調和して、そこに生活してきた山の人々も限りなく美しい自然の恵みを受けてきた。黒部溪谷は自然科学と人文科学の豊庫である。そのまゝの姿で私たちに幾多の学問研究の資料や教訓を提供してくれる。ほう大に拡張してゆく現代の社会機構のなかこそ、天然のまゝで保護された自然の片隅が必要になってくる。

アメリカのイエローストン公園をはじめ、世界の各地で保護されている自然の姿を日本の一部に再現することは不可能であろうか？よほどの機会でもないとするのでないカモンカやニホンザルの生活史も、保護と育成のいかんによっては誰でも気軽に観察できるようになるであろう。溪流のせらぎを耳にしなが、雛鳥にせせと餌を運ぶ小鳥たちの姿を観察し、身近に寄ってきて餌をねだるカモンカの姿を眺めるとき、私たちの心の隅に潜んでいる原始社会への憧憬は心ゆくまで満たされるであろう。

○…山岳公園における各種の利用施設は、自然保護と兩々相俟って整備され大衆の利用に供せられる。(厚生省国立公園部計画課長 千家哲麿氏)

○…自然を知ることは愛することの始まりである。自然に関する科学的知識を普及することが何よりだと思われる。(国立公園協合理事長 田村剛氏)



地獄谷 立山三山から鈿、大日の雄大な景観の間にある。地獄谷は今も盛んに硫気(亜硫酸ガス)や蒸気を噴出している

黒部の雨量観測

西にそびえる北アルプスの連山、大町はこの山々にかこまれて永い歴史の歩みを続けて来た。そして今この山麓の町は、好むと好まざるにかかわらず、新しい形において山と結びつく時を迎えている。関西電力KKは、黒部溪谷御前沢近くに高さ186mのアーチ式ダムを計画、現在その建設工事を急いでおり、赤沢岳を貫く4Kmのトンネルを含む物資輸送路は将来黒部溪谷への大衆的なルートとして大町側に提供されようとしている。このような情勢の中にあつて、本館が24台の100日巻自記雨量計を使って行なわれる関電の雨量調査に協力する態度をきめたのは昨年春であった。黒部溪谷の中心部が人造湖の湖底に没することは、自然保護の任に当る我々として忍びがたいものがあり、滅びゆく大溪谷が惜まれてならない。然し事は電源開発であり、すでに工事は着々と進行しているのである。こういう客観情勢の中にあつて我々のとるべき道は、現地の状況をつぶさに実地踏査し、開発事業の効弊を検討し、このチャンスを将来に生かすこと以外にはないと思われる。

……乳色のキリがはうようにのぼって来る針ノ木の雪溪雨量計設置のために重い器械を背負って一行がもくもくと登って行



った。6月まだ浅く雪は相当にあつた。峠の小屋についてホットする間もなく、今朝からぐずついていた天候がいつべんにくずれて、横なぐりの強風をともなって小屋の板かべをたたいた……やがてそれがアラレになり雪に変わった。翌朝吹きすさぶ合い間をぬって作業をつづけるため、積った雪の中を黒い点は一列になってガスの中に消えて行った。

郷土の民芸品

チロールハット Tirol Hat

峻峰そびえ風光明媚なアルプス山地、そのチロール地方で古くから愛用されていたもので、わが国へは明治末、登山の普及と共に輸入された。純毛で赤、緑、黄、と色とりどりの製品があり、上側に細いザイルが巻かれている。写真は麥ワラでつくられ、土産品として発売されているもの。色は赤で径12cm×高さ8cm。



北アルプス山開き

北アルプス山開き祭は7月1日大町市民館において各々各方面の関係者200名を集めて開催される。白馬連峰、鹿島連峰、烏帽子連峰の各山小屋は7月1日に一斉小屋開きをするが、白馬猿倉、鹿島冷池、烏帽子の山小屋は、1足先きに、20日小屋開きをした。すでに夏山シーズンを迎え、休日を利用して登山者も見えるが、大町観光案内所には百余通の照会が舞いこんでおり、特に長野市役所主催で市民4000名が白馬岳に集団登山をしたいとの照会があり、白馬大池附近でキャンプが予定されている。

お願い 本紙の購読御希望の方は 1年分購読料170円(郵送料共)を現金書留または郵便為替、郵便切手で御送り下さい。 大町山岳博物館



神城ハイキング、キクザキイチリン草のお花畑に寝ころんで：

野に山に…… 同好会 研究会

本館の友の会である研究会(小、中学生の集いで会員100名)同好会(高校生以上一般同好者で80名)は4月以来活発な動きを見せている。同好会は毎月2回山の歌声の会を開き、七月の神城ハイキング、6月の八方尾根日帰り登山等、博物館に親しむ青年男女が、山岳と自然にめぐまれた地域色を生かし、その活動に率先参加している。又研究会は自然、人文科学の勉強に、標本同定やら史跡調べに会員が学芸員を訪れ、6月に行われた植物、昆虫採集と山菜採集会は一日を自然と共に楽しんだ。

山 岳 会

協銀山の会

東京都千代田区丸ノ内一ノ四ノ一

登山の技術研究、指導並びに体位向上と相互の親睦を計るため昭和二十三年六月二十二日設立。会員は360余名例会山行は月三回をうまわり、特に夏山登山、冬季スキーは盛んで、毎月会報を発行し、すでに110余号になる。今後博物館に望むことは東京その他の大都市に陳列品を展示し多数の観覧者に便宜を計ってもらいたい。



(博物館だより) 5月19日黒部上流自記雨量計設置(5月23日まで) 同好会神城方面ハイキング 5月23日居谷里動植物調査山の歌声の会 5月29日本館第二次工事入札山の自然科学教室開設打合せのため上京 6月1、2日日本色彩研究所関秀光、細野尚志両氏来館講演会開催 6月3日居谷里野鳥観察と生態写真撮影 4日嘱託員調査員会 5日館員会 8日黒部上流自記雨量計設置

(今月の寄贈) ツバメスキークラブバッチ1ヶ東京都齊藤益太郎アマサギ1体常盤西山平林忠雄 オオヨシゴイ1体俵町越間幸一フクロウ1体美麻南小学校 カルカモ3体五日町遠山規 メボソムシクイ3体常盤下一浅野重治 イシガメ1体常盤須沼志真秀弘

編集後記 ▲日中はうだるような季節となった。涼を求めて夏山、海、湖水に各々計画に御多忙の事と思う▲深山幽谷の黒部も関西電力の手によって、ダム建設の斧が振りおろされて2年、8月には大町ルート(大町-黒部溪谷)が完成されるという。今後観光地として発展も期待されるが、国立公園の顔察も憂慮されるべき問題だと思ふ。こゝに第二の上高地としてクローズアップされる日も間近であろう▲大糸線全通も8月15日、多年懸案であった海と山を結ぶルートが完成されるわけである。遠く関西から訪れる登山者に便を与えるであろう。このところ大町市も過渡期にあるとともに博物館も一転換期にある。

山と博物館

No.18 1957.6.20発行

編集発行人 大町山岳博物館

発行所 大町山岳博物館

長野県大町市神楽町電話211番

印刷所

信州印刷株式会社